

# 島根の地域医療

第70号

2019/11/20

SHIMANE  
AKAHIGE  
BANK



発行者 島根県健康福祉部  
医療政策課医師確保対策室

## 今回の紙面

- ◆地域医療最前線 NO.75 《「患者様の人生に寄り添う医療の実践」  
社会医療法人昌林会 安来第一病院 院長 杉原 勉》
- ◆地域活動のページ 《「中山間地域の公立邑智病院支援活動について」  
公立邑智病院を支援する会 会長 南原 博文》
- ◆看護師さんのページ NO.54 《「島根県ドクターヘリ フライトナースの活動紹介」  
島根県立中央病院 高度救命救急センター フライトナース 三島 美幸》
- ◆研修医のページ NO.57 《益田赤十字病院 松本 源樹》
- ◆令和元年度夏季地域医療実習の紹介



## 地域医療

### 最前線

No.75

## 患者様の人生に寄り添う医療 の実践

社会医療法人昌林会  
安来第一病院 院長

杉原 勉



安来第一病院は、  
昨年病院  
開設70周  
年を迎え  
ました。  
その間支

えていただきました皆様深く感謝申し上げます。現在は、内科・神経内科・精神科など18診療科を標榜し、一般科病床198床（地域包括ケア病棟、回復期リハビリテーション病棟、療養病棟）、精神科病床183床（精神科急性期治療病棟、精神療養病棟、認知症治療病棟）、合計381床となりました。昨年12月には、新診療棟東館が完成しました。このたびの整備は、島根県地域医療構想の安来市の医療の課題解決の一助であり、地域包括ケア病棟50床、回復期リハビリテーション病棟48床、リハビリテーションセンター等を整備しました。病室

は、98床のうち82床を個室としました。個室化のメリットとして、感染制御、患者様のプライバシーの確保、ご家族との絆、患者様・ご家族の満足度の向上、個室内でのリハビリ効果を期待しております。稼働後9カ月が経過し、高度急性期病院等からの主にリハビリ、緩和ケア、療養を目的とした転入患者様は増加しており、急性期治療後の患者様の早期受け入れができてつとあると考えます。120名のリハ専門職の活躍により、入院中の365日のリハビリ及び通院・訪問リハビリの提供を可能とし、関係事業所との協力・連携により在宅生活の継続に結びつけることができていると思います。最近の医療は「治し支える医療」が求められます。まさに当院は、支える医療の役割も大きいと考えます。生活の視点、さらには看取りの質が問われます。医療に携わる者として、生活者である患者様の人生に寄り添うチーム医療・ケアを実践していきたいと考えております。新診療棟東館の完成により療養環境は若干の改善を図ることができました。次は、職員一丸となって、当院の医療ケアの質・レベルの向上、そして患者様の満足度の向上を目指していきたいと考えています。来春、地域住民の健康寿命の延伸を目的に健康増進、病気の予防、未病の改善、フレイル対策、認知症予防等のできる施設としてヘルスケア

センターアクティブを稼働予定です。パワーリハビリ、ランニング・ウォーキング機器などでの運動、健康に配慮した食事、さらには癒しの提供により、健康の街、予防の街づくりを進めていきたいと考えております。今後2040年に備え、ITを取り入れた「スマート医療・介護システム」を模索しつつ、高齢者、精神障がい者の地域包括ケアシステムの充実に向け、安来第一病院を中心に、介護保険事業所・障がい福祉サービス事業所15事業所と連携し、「安心して暮らせる地域社会の実現」と「地域包括ケア・コンパクトシティふれあいタウンやすぎ」の充実に目指していく所存です。引き続き、皆様のご支援をよろしくお願い致します。



中山間地域の公立邑智病院  
支援活動について

公立邑智病院を支援する会

会長 南原 博文



本会結成の動機及び背景

中山間地域で地域医療を担う大田圏域の医師充足率は、ここ数年70%前後で推移し良好な医療環境とは言えず、緊急患者が発生すれば即生命が危ぶまれる可能性もあることから、住民有志の強い思いや行政の意向もあり、平成25年1月「公立邑智病院を支援する会」を結成しました。

中山間地域唯一の公立病院

公立邑智病院は救急告示病院でベット数98床。邑南町中野地区にあり、川本町、美郷町及び邑南町の3町で構成される自治体病院です。対象人口は、18,660人、世帯数は8,770世帯、高齢化率は45%で、山間地の典型的な過疎地域にあります。

公立邑智病院を支援する会の活動



病院ミニコンサート支援（入院患者さんを会場と病室の移送ボランティア）



病院玄関前四季の花植え（お花いっぱい運動）

こうした活動により、住民の病気への知識や日頃の健康意識の向上が図られ、病院と住民の絆を強めていると思います。また、高校訪問は医師



病院職員・支援会協働除草作業

会員数は、現在個人会員268名、団体会員11団体で、そのうち役員16名体制で活動を展開し、会費は個人年会費が500円、団体2,000円で、さらに3町からの負担金10万円を充当し運営しています。

結成時の会員は72名。この7年の間に会員が着実に増えてきました。ここにも住民の強い思いを感じています。

さて、発足当初から特に重点的に取り組んだ啓発活動は、次の3点であります。

- (1) 住民一人ひとりが、かかりつけ医をもつ。
- (2) 時間外診療は、急患を除きやめる。
- (3) 診察治療が終われば感謝の言葉を述べる。

住民にこの3点を呼びかけているのは、病院に勤務する医師・看護師に過重な負担をかけないように、そして感謝の気持ちを示すことを常に忘れないように、という思いからです。また、主要な事業として、次のような活動をしています。

- (1) 健康づくり講演会の開催
- (2) 「お花いっぱい運動」（病院玄関前に四季の花植えをしています）
- (3) 病院周辺の草刈作業
- (4) 病院で開かれるミニコンサート
- (5) 病院関係者との交流会（草刈作業の後で行っています）
- (6) 情報発信のための会報発行
- (7) 医療職養成のための高校訪問

7つ目の「医療職養成のための高校訪問」というのは、会員が進路指導の先生に対し、地域の医療が危機的な状態にあることをご説明し、医師・看護師といった医療職を目指す生徒を増やすような指導をされるよう、お願いし出かける活動です。

こうした活動により、住民の病気への知識や日頃の健康意識の向上が図られ、病院と住民の絆を強めていると思います。また、高校訪問は医師不足、看護師不足の現状に対し、住民が側面から支援できていると思います。

今後の活動支援の在り方

人生100年時代を迎える中で、加速する人口減少社会にあつて、中山間地域の医師をはじめとした医療人材の不足は、今後より深刻になることが予想されますので、今以上に医療関係者が勤務しやすい環境づくりを進めていく必要があると考えます。また、医師不足、看護師不足の現状を解消するために、住民が側面から支援できることもあると思います。「公立邑智病院を支援する会」では、これからも地域医療を守るために、住民活動から何ができるかを追求し、病院、行政と連携しながら支援を進めていきたいと思っております。

島根県ドクターヘリ  
フライトナースの活動紹介

島根県立中央病院  
高度救命救急センター  
フライトナース 三島 美幸



島根県ドクターヘリは、島根県立中央病院を基地病院として、2011年6月から運航を開始しました。年間500件程度、延べ5,000件出動しています。フライトナースは一日2名体制で勤務し、8時半から日没前までの運航時間をカバーするために時間差で

出勤しています。ファーストフライトナースが朝出勤すると、薬品・点滴類を準備し、ヘリ機内に搭載している医療機器の点検を行います。

8時半になると、運航管理スタッフとパイロット、整備士、救急外来の医師、フライトドクター、フライトナースが集まりブリーフィングと呼ばれる朝礼を行います。その日の天候や注意事項、メンバーを確認します。ヘリコプターに乗り、院外での医療を安全に遂行するためには医療スタッフと運航スタッフ双方の協力がが必要です。このため、ブリーフィングで顔を合わせ、良好なコミュニケーションをとるようにしています。

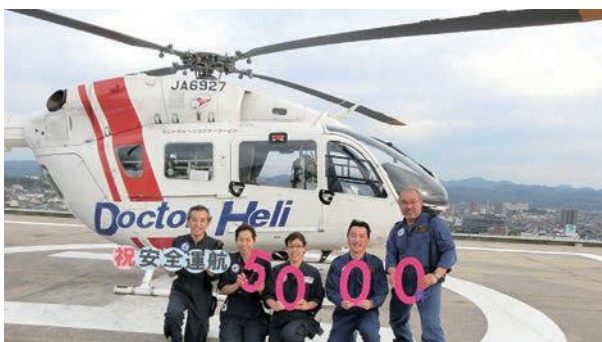
フライトナースは普段、救急外来で勤務しています。ドクターヘリ要請の電話が鳴ると、患者情報を収集しフライトドクターとともに出勤します。目的地に着くと、患者さんを乗せた救急車に乗り込み、診察を開始します。私たちは、フライトドクターの指示のもと、患者さんの状態が安定するよう必要な処置を実施します。また、記録やご家族の確認、資器材の片付け（すぐに出発できるように使用した資器材は不用になると片付けます）、他職種のスタッフに声をかけ現場の調整も図ります。必要な処置を行ったのち、ヘリ機内へ搬入します。ヘリ機内でも患者さんの状態に変化はないか継続して観察し、搬送先の病院まで安全・安楽に

搬送できるよう努めています。帰院後は、カルテの入力や資器材の点検や補充をし、次の要請に備えます。

夕方には再びスタッフが集まり、その日の症例について話し合います。セカンドフライトナースがヘリ機内の片付けをし、待機終了となります。

通常の業務のほか、月に1回から2回、ナースミーティングを行っています。様々な視点から症例について考え、問題がないかを話し合い、次につなげていきます。

また、中央病院へ実習に来られた方にドクターヘリやフライトナースについて紹介する機会や、院内外のイベントに参加する機会にも恵まれており、県民の皆様にも広く認知されるようになったと思います。



今後フライトナースとしての役割を果たし、患者さんや家族の不安にも寄り添えるような活動ができるよう、一つの現場に引き合っていきたいと思えます。

益田赤十字病院 松本 源樹先生



皆様こんにちは。益田赤十字病院で初期研修医をしております松本源樹と申します。出

身は島根県益田市で、益田高校から地域枠推薦で島根大学に入学しました。今回この「研修医のページ」を執筆させていただくことになり大変光栄です。医師としては未熟者の私ですが、高校時代から現在に至るまでの経緯、そしてこれから先のことについて少しお話をさせていただければ幸いです。

まず高校時代についてです。私は良く言えば初志貫徹、悪く言えば融通が利かない性格のため、進路については医学部のみを考えていました。今となつては医学部にこだわり続けた理由も思い出せませんが、医師に対する憧れがあったことだけは確かです。そして高校時代の早い段階で地域枠推薦入試を受けることを決心しました。地域枠推薦では、市長、病院長、保健所所長といったそ

の地域の医療に深く関わっておられる方々との面接があります。その他にも医療・福祉現場体験活動を行い、適性評価を受けます。医師がどれほど必要とされているのか自分の目で見て肌で感じる事ができます。そういった地元の方々の後押しもあり、島根大学に入学することができました。

次に大学時代についてです。小、中、高と吹奏楽部員だったこともあり、部活はシニールカメラト管弦楽団に所属し充実した日々を過ごすことができました。勉強に関しては、つらくて逃げ出したくなるような時もありましたが、医学部にこだわりの続けた高校時代の自分を裏切りたくない一心で頑張っていたような気がします。また、地元の実習や懇親会に定期的に参加し、同郷の先輩からお話を伺うのが良い刺激になっていたと思います。山あり谷ありの6年間でしたが、何とか全て乗り越えて現在に至ります。

最後に、これからについてです。初期研修が終われば専門研修が待っており、近い将来進む診療科を決めなければなりません。しかし、今は日々の業務をこなすのに精一杯で、先のことを考える余裕がないのが現状です。漠然とした不安や焦りを感じることもあります。とは言っても絶対的な正解があるわけではないので、自分なりの答えを見つけられる

よう、まずは目の前の患者さん一人一人を大切にしよう心掛けていこうと思っけています。まだまだ先は長いですが、不屈の精神で頑張りますのでこれからも何卒よろしくお願ひ致します。

## 令和元年度夏季地域医療実習の紹介

令和元年度夏季地域医療実習が8月に行われました。

### 実習の目的

この実習は、医学科の学生が地域医療拠点病院・へき地診療所等の活動や地域との連携を実地で体験・学習することにより、地域医療や公衆衛



生業務に対する理解を深めることを目的にしており、島根大学が島根県からの委託を受けて実施しています。

対象者は、島根の地域医療に興味を持つ医学生

(在籍する大学や出身地は問いません)、島根県出身の自治医科大学在学中の医学生、島根県から奨学金の貸与を受けた医学生です。

### 今年度の状況

今年度は、定員を大幅に超える応募がある中、30人が参加しました。



松江、雲南、出雲、県央、浜田、益田、隠岐(島前・島後)の7地区で、各地区とも3日間の日程で実施されました。このうち浜田地区では20日(火)から22日(木)の3日間、1日目は波佐、

弥栄、あさひ診療所で、2日目は済生会江津総合病院、西部島根医療福祉センターで、3日目は浜田医療センターで実習が行われました。

### 実習生の感想

実習生からは、「大腸カメラや尿道カテーテルの交換の見学など、生で見るのは初めてなので驚きの連続でした」「地域医療の現場で、患者さんの生の声や医師のお話を聞いたことは、これから医師を志すに当たり非常に貴重なものでした」「貴重な体験をさせていただきました」という声が寄せられています。

### お問い合わせ

この実習に関するお問合せは、島根大学医学部学務課教育改革・教務担当 電話0853-2012085まで お願いします。

また、研修内容は、次のURLで見ることができます。

<https://www.med.shimane-u.ac.jp/school-life/sscm/2019summer.html>

【医療政策課 板垣】